

# 県に国保運営移管

# 保険料増に緩和措置

## 6年めど市町へ補てん

2018年度に財政運営主体が市町から県に移管される国民健康保険について、県は運営方針の方向性をまとめた。被保険者の負担に激変が生じないよう、段階的に新制度への移行を進める。保険料額が急激に増える市町に対しては、6年程度をめぐり県が市町に国費で補てんする。(牧野将寛)

国保は構造的な赤字体質で、規模を拡大して財政基盤を安定させるため、都道府県への移管が15年に決まった。県長寿福祉課によると、県内の国保の被保険者数は11年は19万人だったが、15年は17

市町	被保険者数(人)	医療費(円)	保険料(円)
福井市	55,210	377,895	102,621
あわら市	6,564	397,731	99,768
坂井市	19,173	382,807	97,799
大野市	8,218	401,304	88,897
勝山市	5,574	409,669	92,343
鯖江市	15,368	368,822	98,489
越前市	17,994	378,725	80,809
敦賀市	15,485	388,217	89,266
小浜市	7,319	350,650	88,740
永平寺町	3,901	395,156	92,966
越前町	5,187	367,501	89,122
池田町	653	406,980	63,110
南越前町	2,456	410,158	90,105
美浜町	2,519	423,723	97,139
若狭町	3,843	399,230	96,663
おおい町	1,953	385,224	67,941
高浜町	2,739	340,152	78,846
県平均	計174,156	381,626	94,700

41万3千円、25年は44万6千円となると試算している。15年度の市町別に見ると、医療費が最も高いのは美浜町で42万3723円。最も少ない高浜町は34万1522円で8万3571円の差がある。現行の保険料は、各市町の医療費水準に応じて算定している。各市町の保険料総額を

被保険者数で割った一人当たりの保険料は、福井市が最も高く10万2621円。最低の池田町は6万3110円となっており、3万9511円の開きがある。

市町は、徴収した保険料と公費を合わせて県に納付する。県は当面、市町ごとの医療費水準を納付金の算定に反映させる方針だが、新制度移行で保険料額が急激に増える市町には、県が6年程度をめぐり緩和策を講じる。将来的には、所得に賦課する割合や個人や世帯にかかる金額を全市町統一したいとしている。

さらに、医療費の適正化に向け▽予防・健康づくり▽適正な受診・服薬▽後発医薬品利用—などを進める考え。県長寿福祉課の船木麻央課長は「県国民健康保険運営協議会でしっかり議論してもらい、円滑な制度移行につなげたい」と話している。